

令和7年度

学校（自己）評価報告書



岩見沢市立清園中学校

□学校の概要

推進校	岩見沢市立清園中学校				
校長名	菊地 佳子		教職員数	1 6 名	
学 年	1 年	2 年	3 年	特別支援	合 計
学級数	1	2	2	2	7
児童数	2 9	4 9	5 0	5	1 3 3
住 所	岩見沢市志文町 927 番地 5 号				
電 話	0126-2 2 -4859				
F A X	0126-22-4950				
U R - L	https://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp/kosodate_kyoiku/gakko_kyoiku/chugakko/2/7060.html				
e-mail	seieinc@edu.hamanasu.com				

Ⅰ 学校教育目標

「個性を生かし、豊かな自己実現をめざす生徒の育成」

◎自ら学び、真理を究めよう

◎豊かな心を培い明るく生きよう

◎心身を鍛えたくましく伸びよう

めざす学校像・生徒像・教師像

「生徒・保護者・地域が自慢できる学校」～生徒が輝く学校

「自立できる生徒」～自分のことばに責任のもてる生徒

「生徒を第一に考える教師」～生徒と共に考え努力する教師

II 中期及び単年度の具体的目標

- ア 授業改革 「思考力を高める授業づくり」
- イ 心の改革 「安心できる学級づくり」
- ウ 接続改革 「保護者や地域の期待に応える学校づくり」
- エ 行動改革 「組織的な学校づくり」

III 各種具体的な計画

ア 授業改革

1 「社会に開かれた」教育課程の実現と改善サイクルの確立

- ・教科横断的な視点での単元計画の改善
- ・各種調査に基づく RG-PDCA サイクルの好循環

2 不断の授業改善

- ・子どもの声が60%響く授業の実践
- ・生徒の「学習スキル」の育成と教師の「授業スキル」の向上
- ・先端技術を活用した探究的学習の構築

3 学力向上を図る機会の確保

- ・授業の気づきから問いへと思考を深め、学びを自己調整する力を育成。(授業、家庭学習、単元テストを一体化するマイ・ノートプランの取組を小中接続して推進)
- ・少人数やTTによる補充的・発展的な指導の実施
- ・授業終末の振り返りを充実し、次の学びに向かう力を育成。(小中接続した取組を強化)

化)

【数値目標】全国学力調査で「授業がよくわかる」と答える生徒の割合 85%以上

イ 心の改革

4 道徳教育の充実

- ・子どものつぶやき・発言から展開する「考え、議論する」道徳授業の充実

(「むりなく・むだなく・むらなく」

三無主義の道徳実践)

5 生徒の主体性を重視した活動の充実(発達支持的生徒指導の視点を重視)

- ・「ピア・サポート」の理念を全教育活動に浸透し「傾聴・受容・共感」の心理的安全性を確保した学級風土の醸成

- ・児童・生徒会が連携し主体となった行事や挨拶・いじめ根絶等の取組
- ・3校の教職員が「寄り添う指導」により、3校児童・生徒を支援する組織体制を構築したいじめなどの問題行動の未然防止や早期発見・迅速対応（小中合同で生徒指導会議を月に1回程度開催し、年間を通じたスムーズな情報共有の環境を整備）

6 キャリア教育の充実（小中接続）

- ・小中接続した系統的なキャリア教育の実施と職場体験学習の充実
- ・「ふるさと教育」や「主権者教育」の充実

【数値目標】生徒アンケートで「楽しく学校に通えた」と答える生徒の割合 85%以上

「自分には良いところがある」と答える生徒の割合 85%以上

ウ 接続改革

7 義務教育9年間を見通した計画的・継続的な教育課程の充実

- ・子どもの声を響かせる小中接続した授業づくりの研究
- ・小中及び外部の専門的な研究機関と接続した9年間の継続性のある指導の充実
- ・キャリア教育などの小中合同学習の計画的な年間実施
- ・小中合同研修会を通じた教育課程接続の研究推進「ふるさとを愛し生き抜く教育課程」

8 コミュニティ・エリア機能の拡充

- ・コミュニティ・エリアで目指す理念や地域人材を共有し、「社会との接点を重視する」教育活動の充実（自己有用感を引き上げる「地域防災訓練：助けられる人から、助ける人に」）
- ・清園中学校区学校運営協議会によるコミュニティ・エリアの取組と評価の更なる充実
- ・小中接続による家庭学習を強化する取組の改善・充実（高学年からのマイノートづくり実践）

【数値目標】保護者アンケートで「経営方針や教育活動を保護者や地域によく伝えることができていると答える割合」85%以上 ※どちらかと言えばを含め

エ 行動改革

9 目的達成型の分掌組織による業務の推進と企画委員会の機能強化

- ・R-G-P-D-C-AサイクルとO-O-D-A理論による臨機応変な目的の達成
- ・主任層の裁量権の拡大による独自性と創造性の発揮

10 働き方改革の推進

・小中コアチームの接続による合同研修会を通した「SMS 働き方改革」の企画立案と推進

- ・効率と効果に焦点を当てた業務の見直しによる教育活動の推進
- ・服務規律の徹底と教職員のメンタルヘルス
- ・初任段階職員対象の小中メンター研修実施による効率的な業務の推進
- ・学年（チーム）担任制による教職員の持ち味（強み）をチーム力に変換する取組の推進

【数値目標】・施錠時間 17：45 ・年休7日以上

- ・超過勤務を1か月45時間以内、1年間360時間以内
- ・留守番電話設定時間 17：30以降翌朝7：30まで

IV 各種評価結果と改善策

V 学校関係者評価を受けての改善策等

前期生徒アンケート まとめ

OR7 学校経営のグランドデザインから

①生徒アンケートで「楽しく学校に通えた」と答える生徒の割合85%以上⇒93%.

②生徒アンケートで「自分にはよいところがある」と答える生徒の割合85%以上⇒74.8%.

OSMS 共通項目

3:「学校行事や学級活動、学習の進め方など、やることを自分で決めていますか。」⇒92.2%.

32:「自分が決めたことに挑戦し、最後まであきらめずにやり続けることができますか。」⇒82.6%.

〇経年変化をみている項目 1:できている 2:だいたいできている の割合

	R4.	R5.	R6.	R7.

後期生徒アンケート まとめ

OR7 学校経営のブランドデザインから (赤色…前期 青色…後期)。

①生徒アンケートで「楽しく学校に通えた」と答える生徒の割合85%以上⇒93%⇒89.7%。

②生徒アンケートで「自分にはよいところがある」と答える生徒の割合85%以上⇒74.8%⇒76.1%。

OSMS 共通項目

3:「学校行事や学級活動、学習の進め方など、やることを自分で決めていますか。」

⇒92.2%⇒89.7%。

32:「自分が決めたことに挑戦し、最後まであきらめずにやり続けることができますか。」

⇒82.6%⇒84.6%。

○経年変化をみている項目 1:できている 2:だいたいできている の割合。

	R4.	R5.	R6.	R7(前期)	R7(後期)
規則正しい生活が送れている。	68.6.	81.7.	81.6.	80.0.	81.2.

教職員反省

授業改革－思考力を高める授業づくり

1「社会に開かれた」教育課程の編成・実施と改善のサイクルの確立

2 不断の授業改善

3 学力向上を図る機会の確保

	とても良くできている	良くできている	あまりできていない	できていない、早急な改善が必要
前期	0	11	3	0
後期	1	12	1	0

前期	<p>△授業のベースができておらず、授業の質といった部分まで到達できていなかったが、振り返りの時間だけは毎時間確保できつつあるため、その点は継続して行っていきたい。</p> <p>●自分自身に余裕がなく、あれこれ考える時間が無いまま、毎年の流れで授業していることが多い。</p> <p>○現状の社会情勢や高校入試で求められている力や、研修テーマなど意識した授業の取り組みを行い、生徒の様子や理解度、テストの結果などから改善を意識している。</p> <p>▲どこに書けばいいかわからないので、教育課程に関連があると思うのでここに書きます。朝打ちはやはり毎日行うほうがいいと思います。すべてを口でまかなうのは効率的かもしれませんが、言葉でのコミュニケーションが教師間でも必要かと考えます。</p> <p>○校内、SMS 研修により授業改善を進める意識の高まりが感じられる。授業改善が全体での取り組みとなるようにしたい。</p>
後期	<p>△校内研修を中心に何をすべきなのかがわかりやすくなっている。ただ、自分に時間的な余裕がなく、日々の授業、公務をこなすのが精一杯になっている。</p> <p>●まずは基礎基本の定着を重点に授業を行い、結果として意欲の面や理解の部分で成果が見られる生徒がいる。ただ、能動的な学習への取り組みが不十分な生徒も数名おり、それらの生徒が意識や目的をもって学習に取り組むよう指導することについては課題が残る。課題や進度を選択させることで、達成感や定着をはかり、能動的な学習となるよう取り組んでいきたい。</p> <p>●研修担当が進めてくれた自立した学習者を育てるための授業を意識し自らの授業スタイルを改良し、トライ&エラーで積極的に改善を図った先生もいたが、全体的にはまだ、教師主導で一方的な一斉授業から脱却できない教科が多いように感じる。授業以外でも、係だけが一生懸命汗を流し、周りが協働できてない事への虚しさや、危機感、係への労いの声が伝えもれていた事があった。次年度はみんなが進めればと思います。</p>

心の改革—安心できる学級づくり

4 道徳教育の充実

5 生徒の主体性を重視した活動

6 キャリア教育の充実

	とても良くできている	良くできている	あまりできていない	できていない、早急な改善が必要
前期	0	12	2	0
後期	1	13	0	0

前期	<p>○様々な場面で生徒に決定権を与えるように投げかけをしている</p> <p>○道徳、上級学校訪問、職場体験学習、進路学習などを、可能な限り生徒の主体性を意識した取り組みを行っている。</p> <p>▲チーム担任制を単学級でどのように実施していくか。</p> <p>○生徒の考えを引き出し、創意工夫や創造、改善…自分の考えが受け入れられたということを大切にしたい。</p> <p>▲総合的な学習の時間に取り組む事柄が多く、その対応に忙殺され日々の</p>
----	--

	<p>授業研究まで手が回らない。 △生徒を主体にする重点が教員間でどれくらい意識されているか、また生徒がどれくらい意識しているかの検証が必要ではないか。 △生徒に自己決定させるためには事前準備が必要で、そのための用意をどのようなスケジュールで行うかなど課題が見えた。</p>
後期	<p>○毎日の学年・学級経営の中で生徒の考えを聞いて取り入れられるように心掛けている。 ○日々の様子や振り返り等で、学級に安心感をもっている生徒が大部分であると考え。ただ、集団生活を苦手としている生徒もいるので、引き続きケアしていく。 また、必要な場面で自主的、主体的に行動できる生徒が少ないので、考えたり行動したりする場面を意図的に用意して成長を促していく。 △道徳は導入時から時間が経ち、一人一人が慣れて、独自に授業を展開できるように なった反面、取り組みが雑になり道徳以外の事を授業で行う場面も見受けられた。 生徒会の活動は生徒が自分で決めたり運営を担ったりと、自主活動が多く見られた と思います。係の先生方がそのような土壌を作り意識を一步前に進めてくれたと思 います。次年度はさらに生徒主体の活動になっていくと思います。 生徒アンケートの自由記述を生徒の生活に返していく機会がないと感じました。次年度具体的に設定できるとよい。</p>

接続改革—保護者や地域の期待に応える学校づくり

7 義務教育 9 年間を見通した計画的・継続的な教育課程の充実

8 コミュニティ・エリア機能の拡充

	とても良くできている	良くできている	あまりできていない	できていない、早急な改善が必要
前期	1	10	3	0
後期	1	9	4	0

前期	<p>▲小学校の最近の考え方と中学校の考え方がマッチしていない ▲SMS などについての理解が不十分であり、今後の研修などで深めていきたい。 △9年間を見通した取り組みの必要性について全体のものにする。 ▲SMS以外の総合的な学習の時間に取り組む事柄を精査して減らしていかなければ、どの取り組みも中途半端になってしまう。</p>
----	---

	○研修グループが小中で接続を図ってくれていることが校区の授業改善に繋がっている。
後期	<p>●SMSでの小中接続については、今までもいろいろと試行錯誤しながら進んできていると思いますが、9年間を見通した教育過程の充実については、現時点では十分とはいえず、SMSの部会に位置付ける等の手立てを考えながら今後整えていく必要があると思います。</p> <p>●SMSの会議、行事はやっている感があるが、それが本当に必要な事かが疑問である。校内研修を同じような課題でやることも大事だが、SMSチーム会議ではなく、各学校の児童生徒指導の実態や教科指導などについて全体研修の中で取り入れてもいいのではないかと感じます。SMSチーム会議や行事はただ私たちを忙しくさせているだけのように感じる。会議、行事の削減を望む。</p> <p>△小学生も含め、異学年が互いの成長のためにより関わりができるような働きかけやプログラムをつくっていきたいが、まだまだな部分が多いので、今後取り組んでいきたい。</p>

行動改革—組織的な学校づくり

9 目的達成型の分掌組織による業務推進と企画委員会の機能強化

10 働き方改革の推進

	とても良くできている	良くできている	あまりできていない	できていない、早急な改善が必要
前期	0	9	5	0
後期	1	10	3	0

前期	<p>△働きやすい職場の環境づくりこそが「働き方改革」で一番重要なことと考えます</p> <p>○可能な限り定時退勤を意識し、作業の効率化や、役割分担の適正化を図っている。</p> <p>▲他の学年同様に単学級でもチーム担任制を実施すべきだと思う</p> <p>▲部活を縮小していくという方針に従って各部、動いてきたが、現状を見ても、部によってかなり活動にばらつきがあるような気がします。</p> <p>▲主に分掌業務にかかわる意見です。今年の春に赴任してきての感想ですが、赴任当日に旧係作成による担当分掌の大量の書類を印刷し、グループ部会を行いました。</p> <p>そこでは文書の不備の指摘もあり、私自身が消化不良のまま職員会議での提案となりました。その中で質問を受ける場面があったのですが、去年の経緯を全く知らない状況で答えるのは無理です。その後、簡単な引継ぎ文書をフォルダの中に見つけたのですが、その存在に気づく余裕はありませんでした。今まで勤</p>
----	--

	<p>務してきた学校では分掌の引継ぎは春休み中に行われ、4月の提案は旧係で行ってきました。旧係が転出した場合はグループ内のだれかが代わりに提案をしていました。中途半端な提案をするくらいならそのような形にするか、せめて翌日以降に職員会議を設定することを切に望みます。</p> <p>△企画委員会の機能強化を図る。 ▲分掌業務に軽重に偏りがまだまだある。業務内容の精査、スリム化が急務。</p>
後期	<p>●一部の教員に校務が偏っている。全員に平等にということにはならないと思っ ては いるが校内人事で配慮できることもあると考える。企画委員会については負担が大きく見える。何でもかんでも企画委員会でやればいいということにはならない。逆に負担軽減を考えるべき。</p> <p>来年度で部活動を終えることになっているが、働き方改革の中で部活動は悪ではない。部活動を通して指導できることもあるし、生徒の成長や活躍の場となっていることも事実である。なくすことによって生徒がどのように変容するのか心配である。</p> <p>●企画委員会の業務が多く、担当される方の負担が重いように感じます。 ●企画委員会メンバーの負担が大きすぎるように感じます… 働き方改革に関しても改善の余地があるような気がします(PTA 活動等、組織とし 足並みが揃っていない部分がある) ○効率的に作業をすることを意識して取り組んでいる。 ○目指す子どもの姿が明確に設定されたので、各分掌でそれを意識しみんな なで子ども のために学校を運営していければと思います。</p>

<企画委員会まとめ>

<p>『授業改革』 「まずはやってみる」を大切により一層の授業改善が望まれる。一斉授業が少しでも改善されるよう取り組んでいきたい。</p> <p>『心の改革』 ・「生徒の主体性の重視」に主眼を置いた取り組みを今後も増やしていく必要がある。多少のリスクは伴うが、生徒自身がアイデアを出し活動できるよう支援していく必要がある。</p> <p>『接続改革』 ・SMSの取り組み自体に疑問を感じている方がいます。なぜそう感じるのか分析を行い 3校で取り組めるカリキュラムを構築していく必要がある。</p> <p>『行動改革』</p>
--

・働き方改革の考え方に大きな差がある。『無くす・減らす』はもちろんだが、今後は残されたものの質を高めるという視点が必要になる。質を高めるために不必要なものは無くす必要があると思うが、今あるモノをどうやったらバージョンアップできるかを考えていきたい。

保護者アンケート

↵	アンケート項目↵	%↵
1↵	学校は、経営方針や教育活動など、必要な情報を保護者や地域に伝えることができている。↵	89.3↵
2↵	学校は、生徒一人一人が大切にされ、認められる教育ができている。↵	82.9↵
3↵	学校の授業は工夫され、個を大切にした学習活動ができている。↵	83.0↵
4↵	学校は、生徒の安全や健康に配慮することができている。↵	96.8↵
5↵	学校は、校舎内外の清掃や整備に努め、よりよい環境づくりを行っている。↵	95.8↵
6↵	学校は、保護者や地域の方と関わることができる教育活動を進めている。↵	91.5↵
7↵	学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行うなど、連携がきめ細かくできている。↵	85.1↵
8↵	学校は、保護者からの連絡や相談に適切に対応することができている。↵	90.4↵
9↵	学校は、いじめや生徒指導上の問題に素早く適切に対応することができている。↵	85.1↵
10↵	お子さんは、家庭学習など主体的に学習し自分の課題に積極的に取り組んでいる。↵	57.4↵

VI資料

全国学学調結果

客観的評価からの課題把握② 全国学調結果を受けての授業改善

	国語		数学		理科	
	平均 正答率	全国比 (全国を100とした値)	平均 正答率	全国比 (全国を100とした値)	平均 IRTスコア	全国比 (全国を100とした値)
本校	58%	107	48%	99.4	510	101.4
全道	54%	99	47%	99	505	101
全国	54.3%	100	48.3%	100	503	100

標準学力テスト結果

客観的評価からの課題把握① NRTによる経年変化分析

	国語	社会	数学	理科	英語	教科総合
1年	46.0	44.1	45.7	44.1	51.3	46.3
2年	45.7	44.5	41.9	41.8	46.6	44.1
R6(1年生)	44.8	42.2	44.5	44.8	49.9	45.2
3年	47.0	49.5	45.9	48.0	50.5	48.2
R6(2年生)	48.2	49.1	47.2	48.3	52.1	49.0
R5(1年生)	48.4	46.6	46.5	46.8	50.2	47.8

全国体力・運動能力テスト結果

男子分布 (令和7年度 38人)

成績	A	B	C	D	E
人数	3	8	10	14	3
割合	8%	21%	26%	37%	8%
男子結果	A+B+C 55%			D+E 45%	

女子分布 (令和7年度 56人)

成績	A	B	C	D	E
人数	10	15	20	6	5
割合	18%	27%	36%	11%	8%
女子結果	A+B+C 81%			D+E 19%	

全体分布 (令和7年度 94人)

成績	A	B	C	D	E
人数	13	23	30	20	8
割合	14%	24%	32%	21%	9%
全体結果	A+B+C 70%			D+E 30%	